

第2章 子どもの体験活動の成果と 今後の方向性 — 実地調査の結果から —

第29期青森県社会教育委員は、平成21年8月～10月に、県内18箇所の子どもの体験活動を訪問し、実地調査をしました。第2章では、その体験活動の概要や特長について紹介します。

いずれの活動もすばらしく、それぞれに大きな成果を上げていますが、特に大きな特長として以下の4つのカテゴリーに分けて順に掲載します。

1 参加者・スタッフの成長

- ① ジュニアリーダー研修会【むつ市】 P.20
— 自然体験（キャンプ）を通して子どものリーダー性を伸ばす —
- ② エーデルワイスの会【七戸町】 P.22
— 心の体験（芸術鑑賞）が豊かな感性、人間性を育む —
- ③ ジュニアグローバルトレーニングスクール【青森市】 P.24
— 交流体験（国際交流）を通して真のコミュニケーション力を育む —
- ④ 通学合宿にぎりまんま塾【鶴田町】 P.27
— 長期の集団生活体験（通学合宿）で大きく成長 —
- ⑤ わんぱく王国 ツリーイング体験【階上町】 P.30
— 身体・健康体験、未知の体験を通して新たな一面を発見 —

2 学校や家庭への影響、効果

- ⑥ 蔵館スポーツ&チャレンジクラブ【大鰐町】 P.32
— 教員が学校ではできない活動を地域で実践 —
- ⑦ 根城地区合同キャンプ【八戸市】 P.34
— 地域の大人が協働し、学校、家庭、地域ぐるみで子どもを育てる機運 —
- ⑧ よむよむ応援隊【藤崎町】 P.36
— 地域の大人の自発的な学校支援 —
- ⑨ 水辺の楽校まべち【八戸市】 P.38
— 環境をテーマに地域の中学校と連携 —

3 地域への影響、効果

- ⑩ おさるの森の探検隊【むつ市】 P.40
— 地域の環境資源、教育資源を生かし、地域に根ざした活動 —
- ⑪ 山の楽校【八戸市】 P.42
— 廃校を利用し、地域全戸参加による運営 —
- ⑫ はちのへ子ども劇場【八戸市】 P.44
— 地域の他団体と広く連携し実効性のあるネットワークを構築 —
- ⑬ 八戸童話会【八戸市】 P.46
— 80年以上続く組織と活動。地域から市内、周辺町村まで広がる輪 —

4 新たな可能性と方向性

- ⑭ 子ども福祉体験スクール【七戸町】 P.48
— 福祉の心を次世代に伝え、人間関係豊かな地域づくり —
- ⑮ あおもり子ども劇場 トンバクラブ【青森市】 P.50
— 大学の自然学校と互いにメリットのある連携 —
- ⑯ HEP21エコクラブ【弘前市】 P.53
— 環境をテーマに取り組む高いレベルの活動、行政とのパートナーシップ —
- ⑰ 青森原燃テクノロジーセンター【東北町】 P.56
— 企業による積極的な地域貢献（教育CSR^{注6}） —
- ⑱ チャレンジ体験スクラム事業 ほたて養殖体験【平内町】 P.58
— 行政、NPO、企業の連携によって質の高い体験活動を提供するモデル事業 —

注6 教育CSR

企業が社会的責任を果たす事業活動（CSR）のうち、教育現場への出資や講師派遣・授業用教材の開発・職場体験プログラムの実施等、教育活動に参加・協力し、企業が社会を構成する一員としての責任を果たそうとする活動を「教育CSR」と呼んでいる。

① ジュニアリーダー研修会【むつ市】

訪問日：平成21年8月1日

訪問者：奥島涼子委員

対応者：むつ市中央公民館館長 小島孝之さん ほか



- 公民館（教育委員会）が中心となり、地域の野外活動や子どもの活動のスペシャリストたちが集結。指導者も高い意識をもって子どもたちを指導。
- 地域の子どもリーダーを育成するという明確なねらいを持って、教育効果が高まるよう、活動プログラムを毎年工夫。

体験活動事業の概要

- 【事業名】むつ市ジュニアリーダー研修会
- 【事業主体】むつ市教育委員会（むつ市中央公民館）
- 【活動日】平成21年8月1日～8月2日
- 【活動場所】むつ市下北自然の家
- 【活動内容】キャンプ（1泊2日）
- 【参加者】小学校4年生～6年生32名
- 【活動費】参加費1,000円と市からの事業費で運営



夏休みのキャンプ・活動の場を背景に

40年以上前から、地域リーダーを育成するための子ども会行事として続いています。全体的に言えることですが、少子化と学校外活動の多様化等により、子ども会のリーダー研修会は衰退の傾向にあります。むつ市も例外ではなく、昔は100名を超える参加者がいて、小学生を対象とした初級から、中学生や高校生を対象とした中級・上級まで研修会があったそうですが、最近は初級のみ、約30名ほどの参加者で続いています。

現在、組織の中心となっているのは、むつ市の公民館職員と、むつ市教育委員会が委嘱した「むつ市少年教育指導委員」。「むつ市少年教育指導委員」は、子どもに関わる活動をしている個人に委嘱していますが、それぞれが所属する子ども会、ボーイスカウト、緑の少年団、JICA（国際協力機構）、学校等が、結果として無理のない連携をとることにつながっています。その中心にあるのがむつ市中央公民館で、社会教育行政としてうまくサポートし、運営しています。

活動の工夫、特長

- ・班行動と自然体験活動を通して、自主性、リーダー性、規律心、コミュニケーション力、創造力などを伸ばすというねらいが、スタッフ間で共有できています。
- ・大人はできるだけ手を出さず、子どもたちの自主性を尊重し、子どもたちが自分たちで判断して行動するまで、待つ姿勢が徹底しています。
- ・子どもたちの心身を強くするため、ハイキングなど体力的にきついプログラムを用意し、活動後に子どもたちが大きな達成感を得られるように工夫しています。
- ・活動後のアンケートも充実しており、アンケート結果と参加者の感想文をきちんとまとめています。

今後の展望、課題

- ・ 今後も継続していくが、できれば参加者をもう少し増やしたいし、中学生や高校生の参加も促したい。しかし現実的には難しい、とのこと。
- ・ 若いスタッフや次世代の指導者を育てることが課題です。
- ・ 下北という地理的な課題、地域の課題に対応していくことが必要です。



であいの集い・自己紹介 6班



《プログラム日程》



1日目（8月1日）		2日目（8月2日）	
	※むつ市役所、川内庁舎、脇野	6:00	起床
	沢庁舎から交通手段を用意	6:45	朝の集い、清掃
9:30	であいの集い	7:30	朝食
9:50	研修1 班会議	8:30	研修6 雨の一粒ハイキング
10:30	研修2 係り打合せ	11:30	昼食
11:00	研修3 テント設営	12:20	研修7 テント撤収
12:00	昼食	13:00	研修8 スポーツレク
13:00	研修4 冒険ハイキング	14:00	自己評価、感想文
17:00	野外炊事	14:40	おわりの集い
18:30	夕食	15:00	解散
19:30	研修5 ゲーム大会		※むつ市役所、川内庁舎、脇野
21:15	夕べの集い		沢庁舎までバス等の交通手段
21:30	就寝		を用意

訪問委員感想

◇事業としてのねらいや趣旨が、スタッフ間で共通理解されている。教育委員会主催ということもあろうが、関わる大人が熱意と高い意識を持って取り組んでいる。

◇地域の自然、地域の人材を生かし、自然の家のプログラムともうまく合わせて、子どもの自主性やコミュニケーション力、協調性や責任感が伸びるよう工夫している。

子どもたちも生き生きと活動していた。

◇事前の打合せや、活動後のアンケートが充実しており、常により良い活動にしていこうとする姿勢が素晴らしい。

《奥島委員》

② エーデルワイスの会【七戸町】

対応者：代表 兎内佐智子さん 事務局：森田省子さん

訪問日：平成21年8月5日

訪問者：秋庭隆貢委員
(兎内佐智子委員)



- 地域の学校と連携し、良質の芸術鑑賞教室を企画運営。
- 良質の芸術に直接触れることで、子どもたちの感性や人間性の伸長を目指す活動。

体験活動事業の概要

【事業主体】 エーデルワイスの会

【活動日・活動場所】 平成21年度は、7月9日七戸中学校・城南小学校、7月10日天間西小学校、7月11日七戸町南公民館で実施。他にも7月1日に野辺地中学校で社会を明るくする運動法務大臣メッセージ伝達式に協力。

【活動内容】 世界的に有名な音楽家を招聘し、地域の学校や公民館で演奏会を開催。他にも地域おこしの講演会や読書講演会等も開催。

【活動費】 学校での開催は学校の行事費、公民館等での開催は入場料2,000円。他に「ろうきん1億円基金」や「むつ小川原地域・産業振興財団」の助成金等で運営。

昭和55年に設立した子育てサークル「七戸くだけけ交友会」が前身で、もともとは子どもたちの健やかな成長と親としてのあり方等を学びあう団体でした。平成10年に国際的チター奏者である内藤敏子氏を招いて演奏会を開催したことが契機となり、平成12年から「エーデルワイスの会」と改名し、現在に至っています。会は七戸町文化協会に所属し、七戸町内を中心に約20名の会員で運営されています。会の代表である兎内佐智子さんは地域の保護司をなさっており、兎内さんの人を思いやる心と、自分が地域社会の中でできることは何かを考える気持ちが、そのまま会のメンバーの中にいきづいています。チター奏者内藤氏のほかにも、地元出身のマリンバ奏者新谷祥子氏、ギター奏者ソッコ・マージュ氏など多彩な演奏家を招いており、また児童文学作家宮川ひろ氏や前葛巻町長中村哲雄氏の講演を開催するなど、地域の人に本物の持つ重みや感動を与える活動に取り組んでいます。平成19年にはしちのへ活性化大賞奨励賞を受賞しており、地域への貢献が高く評価されています。

活動の工夫、特長

- ・「本物だけが真実や真心を伝える」という固い信念で、人間的な魅力に富む演奏家を招き、本物の演奏と演奏家の語りを大切にしたプログラムを組んでいます。
- ・地元の小・中学校に積極的に働きかけ、演奏会を実施した学校では子どもたちに大きな感動を与えています。

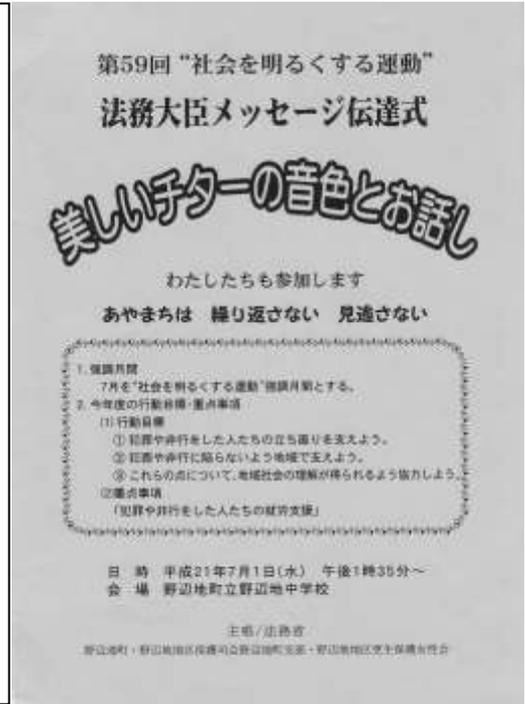
今後の展望、課題

- ・スタッフの結束は固く団体の運営もスムーズだが、会設立初期のメンバーのままで固定しており、新しいスタッフの加入が課題です。
- ・もっと多くの学校で演奏会を開催し、多くの子どもたちに本物の音楽を聴いて欲しいが、学校によっては全く取り合ってくれないこともある、とのこと。

→七戸町南公民館でのマリンバ演奏会パンフレット表紙



→野辺地中学校でのチター演奏会パンフレット表紙



参加生徒の感想抜粋

- ・「チターの演奏はもちろん、講話の内容がとても考えさせられるものだった。自分が存在する意味、自分の価値、生きる上で人の役に立つことが生きがいになること。今回のお話は、絶対忘れないと思います。」
- ・「演奏がすばらしく、本当に感動を覚えました。講話で得たものもたくさんあります。困難な壁があっても人はそれを乗り越えていけること、今を生きるすばらしさを教わりました。今日は本当にすばらしい日でした。」
- ・「チターの音色はとても優しく、おだやかで美しく、まるで演奏者の内藤さんの心がそのまま音になって響いてくるようでした。内藤さんの話も自分の人生をどう生きていくか考えさせられました。内藤さんに心からありがとうございますの言葉を送りたいです。」

訪問委員感想

- ◇子どもたちの情緒面の成長を検証するのは難しいが、芸術に触れる体験には心の変革や疲弊した精神の修復に大きな効果があると考えられる。
- ◇「人の役に立つことが生きがいであり、生きる意味になる」という演奏家の言葉と、世界で評価されている本物の演奏が、参加者たちの生きる力を呼び覚ますことにつながっている。
- ◇子どもも大人も含めて、地域の人々の心を揺さぶり、地域が元気になることを願って活動しており、それが地域で受け入れられ、高く評価されている。 《秋庭委員》

③ NPO 法人 ジュニアグローバル トレーニングスクール【青森市】

対応者：理事長 工藤健さん

訪問日：平成21年8月3日

訪問者：小山内世喜子委員

一條敦子委員、廣森直子委員



- 国際交流と文化交流活動に目的を絞った、多彩なプログラム。
- 開かれた運営会議で新しい意見を柔軟に取り入れ、組織・活動内容とも拡充・成長を続け、高い評価を受けている。
- 高校生や大学生、大人のボランティアが多数参加。子どもも大人も含め、参加者一人ひとりが多くのもので得られる充実した活動。

体験活動事業の概要

【事業名】2009 ジュニアグローバルトレーニングスクール in AOMORI

【事業主体】NPO 法人ジュニアグローバルトレーニングスクール

【活動日】平成21年8月1日～8月3日

【活動場所】青森市立浦町小学校

【活動内容】国際交流キャンプ（2泊3日）

【参加者】小学校4年生～6年生 57名（ボランティアスタッフ60名）

【活動費】参加費1万円と、こども夢基金や公益法人協会などからの助成金、企業からの寄付金により運営。

1980年に、青森市青年会議所の事業「ちびっ子リーダー研修会」として始まりました。当初から青年会議所の若手メンバーが中心となり、毎年新しい活動を取り入れる姿勢で運営していましたが、1992年に三沢米軍基地で小学生の交流事業を開催したことが契機となり、国際交流を前面に打ち出すようになりました。1995年には青森空港に韓国とロシアの国際便が就航するなど、時代の後押しもあって、日本・アメリカ・韓国・ロシアの4カ国の小学生が交流する事業へと拡充されていきました。2000年には実行委員会方式で運営し、2003年に青年会議所から独立、2007年にNPO 法人となって現在に至っています。

例年、日本の子ども60名、各国の子ども60名、計100名以上の子どもたちが参加していましたが、平成21年度は新型インフルエンザの影響で外国の子どもを招待することができませんでした。本来であれば予定が狂うピンチですが、ボランティアスタッフも参加できる全8回の運営会議を通してアイデアを出し合い、日本在住の外国人や留学生の招聘と、日本大使館職員の協力を仰ぐことで、事業を成功させました。

組織の面でも事業内容の面でも、常により良いものになるよう工夫し、成長・充実し続けています。それが広く認められ、2006年「国際交流基金地球市民賞」、2008年「地域づくり総務大臣賞」を受賞しています。

活動の工夫、特長

- ・全8回の運営委員会は夜7時からで、NPO 法人メンバー以外の、一般のボランティアスタッフも自由に参加でき、多くの人の意見を取り入れる体制となっています。
- ・子どもたちに異文化の存在や価値観の相違を気づかせたい、視野の広い人間性を身につけて欲しい、という明確なねらいのもとにプログラムを組んでいます。
- ・スタッフは、子どもとともに活動する生活指導班（1班にメインインストラクター1名、サブ1名、助手2名、留学生3～4名）、活動運営班（2つの班に分かれ交互に準備と片付け）に分かれ、詳細なスタッフマニュアルのもと、スムーズに活動がなされるように工夫しています。
- ・子供たちはもちろんですが、高校生や大学生の若いボランティアスタッフも、子どもや仲間と濃密な3日間を過ごすことで、自主性や責任感、コミュニケーション能力などが大きく伸びたと実感しています。
- ・参加する子ども対象の事前説明会、ボランティア対象の説明会を実施し、また活動後のアンケート（報告書作成）や交流イベントも充実しており、一時的な活動で終わらせない工夫がなされています。

閉校式で、グループごとに感想を発表



理事長から修了証を手渡し



今後の展望、課題

- ・今後も継続していくが、若いスタッフが積極的に関わって世代交代がうまくなされるようにしたい、とのことです。
- ・高校生や大学生の若いスタッフが、この活動に参加することで就職や進学につながるよう、ボランティア証明書の発行等を検討している、とのことです。
- ・助成金が頼りで、必ず毎年得られる保証がないため、資金的に不安定な部分があります。企業スポンサーを見つけ、安定した財源を確保することが課題です。
- ・事業規模が大きくなるほど、海外からの子どもを受け入れるホームステイ先や通訳、留学生など、多くの協力者の確保が必要になります。

スタッフと子どもたちの別れ



スタッフ同士、Tシャツに寄せ書き



↓ プログラム内容 ↓

2009 ジュニア・グローバル・トレーニング・スクール カリキュラム

	1日目 8月1日(土)	2日目 8月2日(日)	3日目 8月3日(月)
8:00	起床・寝具片付け・洗濯	起床・寝具片付け・洗濯	起床・寝具片付け・洗濯
9:00	スタッフ講師 小学校集合	8:30ラジオ体操 朝食(流汁めん)	6:30ラジオ体操 朝食(雑パン・フランクフルト)
9:30	8:00講師 小学校集合受付 8:30コミュニケーションゲーム	8:20世界を考えるお話 「世界・国際交流について」 講師:在日日本大使館一等書記官	グループミーティング グループ発表会
10:00	前田朋介、1-2年選出、 グループ別決定	海水浴(合演)	報告書作成 コミュニケーションタイム
11:00	11:30小学校出発	※スイカ割り シャワー・髪整え	11:30閉校式
12:00	開校式(曹い森公園)副知事・市長 登壇(お弁当)	12:00昼食(ハンバーガー)	12:00解散～ 12:30スタッフ集合～後片付け
13:00	13:30小学校着	入浴タイム(洗澡)	
14:00	賞賞ゲーム ※各国理解講座	おかき水タイム おやつタイム 15:00ものづくり(ねぶた用品) 習字カサ・ハチマキ・ウチワ	
15:00		※おバツ作り 16:30夕食(世界のカレー)	
16:00	(洗澡へ交代せ入浴) ※風力発電教室	17:30小学校出発	
17:00	おかき水タイム	曹い森ふた参加	
18:00	前夜祭ねぶた・夕食(世界の料理)		
19:00			
20:00	就寝準備 就寝 21:00消灯		
21:00		21:00小学校到着 就寝準備	
22:00		就寝 22:00消灯	

※プログラムの内容は変更になることもあります。

訪問委員感想

◇NPO 法人として、また企業人としての経営力や交渉力があって、臨機応変な企画運営と、各協力団体やスタッフとの連携・協力が円滑になされている。

◇子どもたちに、どのような経験をさせ、どのような力をつけさせたいかというねらいにぶれがないため、組織としても活動としても発展し続けている。

◇工藤健理理事長を中心とした理事や事務局のメンバーが、社会人として、また市民として多様な活動に関わっており、それが NPO 法人の運営面でも、若いスタッフの育成の面でも大きな成果につながっていると感じた。

《小山内委員》

◇国際交流を通して、子どもたちは他者を積極的に理解しようとする心、コミュニケーションする楽しさ、その中での自分の役割を確認する力を養っているようである。

◇多くのボランティアスタッフが参加しており、子どもたちの健やかな成長をみんなが支えようとしている様子が頼もしかった。

◇青年会議所の一事業を、当時のメンバーがその意義の大きさに気づき、継続させようという夢を持ち、多くのメンバーと活動し続けてきたことは、今の時代では特筆すべきことであり、すばらしい社会教育活動であると思う。

《一條委員》

◇これまでの経験が蓄積され、よくプログラムされた内容である。

◇中心になるスタッフが、子どもだけでなく、高校生や大学生などの若いスタッフやボランティアの育成を意識していたのが興味深かった。

◇理事長が、人とのつながりを強調されていたのが印象深い。スタッフ、ボランティア、その他関わっている多くの人との連携と支援で運営できている。

《廣森委員》

④ 通学合宿にぎりまんま塾 【鶴田町】

訪問日：平成21年10月2日、10月3日

訪問者：永澤正己委員、小山内世喜子委員、

小笠原睦男委員、一條敦子委員、兔内佐智子委員

対応者：塾長 長谷川美保子さん ほか



- 地域の人材、教育資源を有効に活用。
- 塾長から大学生スタッフまで、子どもへの思いがあふれる熱心な指導。
- 一貫した指導方針と長期の集団生活によって、子どもたちが大きく成長。
- 大学生ボランティアをはじめ、関わるスタッフや地域の保護者にも大きな成果。
- 地域からの厚い信頼と高い評価。

体験活動事業の概要

【事業名】鶴田にぎりまんま塾

【事業主体】鶴田町教育委員会（鶴田町放課後子どもプラン運営委員会）

【活動日】平成21年9月29日～10月3日

【活動場所】鶴田町公民館

【活動内容】通学合宿（4泊5日）

【参加者】鶴田町の小学校5年生～6年生40名（大学生ボランティア14名）

【活動費】参加費3,000円と町の事業費で運営

「にぎりまんま塾」は、平成15年に鶴田町教育委員会の「家庭地域連携事業」として、鶴田町公民館職員が中心になって始まった通学合宿です。その後、元小学校校長である塾長の長谷川美保子さんを中心に実行委員会が組織され、事業は継続されています。実行委員会には行政、学校、子ども会、社会福祉、給食センターなど、多くの団体関わっています。また、子どもの指導に当たる大学生スタッフや、公民館から登下校する際の送迎で協力する保護者、食材やおやつを差し入れる近隣住民など、多くの人の理解と協力によって事業は成り立っています。

通学合宿では、子どもたちは鶴田町公民館2階の大広間に布団を敷き詰めて泊まり、それぞれの通う学校に登校します。鶴田町内の6つの小学校から参加しており、公民館から遠い小学校へは町職員や保護者が協力して子どもを送迎します。学校が終わると子どもたちは公民館に帰ってきて、宿題をしたり、買出しや夕食作りをしたり、清掃や洗濯をします。また、地元の文化サークルによる学習会や、教育委員会体育指導員によるスポーツレクリエーションなど、充実したプログラムを組んでいます。

子どもたちと一緒に生活し指導するのは実行委員会のスタッフや教育委員会職員、そして大学生ボランティアです。大学生ボランティアは教職を目指している人も多く、塾長の指導のもと非常に熱心に指導に当たっています。3年連続参加している大学生の、「1年目は近寄ってくる子どもと仲良く楽しければよかった。2年目はかかわり方や指示の出し方で悩んだ。3年目の今回は目立たない子や自分を避ける子とどう接するか考えている。」という言葉に、学生の皆さんの真剣な姿勢と、大きな成長が表れています。

活動の工夫、特長

- ・塾長の、子どもたちを良い子にしたいという熱い思いと、確かな経験に裏打ちされた教育観、指導方針が、スタッフ全体に浸透しています。
- ・「3日を超えてはじめて、子どもたちは本当の自分を出すようになるし、仲間とも本気で向き合うようになる」という信念で、5日以上 of 長期の集団生活を実施しています。
- ・漫画やゲーム機は持ち込み禁止にし、掃除や洗濯、炊事から買出しまで全て子どもたちが行います。家庭での生活との違いを大きくすることで、子どもたちの自主性、自立性、協調性を伸ばしています。
- ・弘前大学の子どもと関わるサークルが全面的に協力し、子どもたちと寝食をともにして熱心に指導しています。将来教職を目指している学生も多く、毎日の振り返りと実践で、大学生にとっても大きなキャリア教育の場となっています。
- ・国土交通省職員による環境教育や、町の文化サークルによる凧作りなど、下校後の余暇の時間や学校が休みの日のプログラムを工夫しています。
- ・通学合宿最終日は、メニュー決めから買出し、調理・配膳まで全て子どもたちが行い、お世話になった家族や小学校の校長先生、スタッフやボランティア、近隣の施設職員や地域住民など、多くの方を招いてパーティを開きます。



国土交通省職員による環境教育



宿泊部屋



さよならパーティ



閉校式
修了証授与

今後の展望、課題

- ・地域からの評価も高く、参加希望者も多いが、事業規模が大きくなるほど行政や人の協力が欠かせない。特に大学生ボランティアの人数確保が最大の課題。
- ・塾長に続く若い世代の指導者やスタッフの育成が課題。
- ・事業は地域ボランティアからの心のこもった差し入れや体験活動の工夫などで成り立っている。今後もより多くの地域住民の協力が欠かせない、とのこと。

《プログラム日程》

	9月29日(火)	9月30日(水)	10月1日(木)	10月2日(金)	10月3日(土)	
5:45		起床	起床	起床	起床	
6:00		朝食準備・清掃	朝食準備・清掃	朝食準備・清掃	朝食準備・清掃	
6:45		朝食・片付け	朝食・片付け	朝食・片付け	朝食・片付け	
7:30		登校	登校		部屋片付け	
9:00		各小学校で授業	各小学校で授業	水辺の学校観察学 習(国土交通省職員)	感想文作文	
10:00					昼食準備	
12:00					昼食	さよならパーティ
13:00	受付				室内スポーツレクリエーショ ン(体育指導員)	閉校式
14:00	買い物				解散	
16:00	夕食準備	下校	下校			
17:00		夕食準備・清掃	夕食準備・清掃	夕食準備・清掃		
18:00	夕食・片付け	夕食・片付け	夕食・片付け	夕食・片付け		
19:00	開校式	入浴	津軽凧作り	入浴		
20:00	夕べの集い	学習時間	学習時間	学習時間		
21:30	(係決め)	夕べの集い	夕べの集い	夕べの集い		
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝		

※10月2日(金)は鶴田町内全小学校が休校日

訪問委員感想

- ◇親元を離れ初対面の子と一緒に生活するだけでも多くの経験が得られる。さらに多様な職業の大人が関わっており、その、人と人とのかかわりが、子どもたちに大きな影響を与えている。
- ◇参加した子どもの感想文や保護者アンケートの集計を見ても、大きく成長できる貴重な機会となっていることが分かる。 《永澤委員》
- ◇素晴らしい事業なので、今後もずっと継続できるよう、行政のバックアップと地元の若い人材の育成が必要と感じた。 《小山内委員》
- ◇地域の子どもの健全な成長を守りたいという大人の願いが実を結んだ事業であった。ただ、もう少し地元の大人や、子どもの家族の協力がほしい活動内容でもあった。 《一條委員》
- ◇塾長や大学生ボランティアなど関わる大人も生き生きとしていた。大学生の変化や成長も感じられ、どのように成長し、今後どうなっていくのかを見届けたいと思った。
- ◇自分の家とは違う環境での生活と、生活のために労働や協力をする体験は、子どもたちにとって極めて大きな成果を生むだろうと感じた。 《小笠原委員》
- ◇参加した子ども、かつて参加子ども会ジュニアリーダーとして来た子、弘前大学生、関わっている全ての人が、この活動を通して多くの事を学び成長している。
- ◇良い子どもの活動を支える裏には必ず心ある大人が存在する。子どもを対象とする活動では、企画運営する大人の側の姿勢が常に問われていると感じた。 《兎内委員》

⑤ わんぱく王国【階上町】 — ツリーイング体験 —

訪問日：平成21年8月22日

訪問者：荒瀬 潔委員

兔内佐智子委員

対応者：ツリーマスタークラッキングアカデミー副代表 平井憲治さん ほか



- 学校外での様々な体験活動を提供するという目的が明確で、多彩なプログラム。
- 企画に応じて地域の専門家や教育資源を活かし、高い成果を目指す。

体験活動事業の概要

【事業名】 わんぱく王国「ツリーイング体験」

【事業主体】 階上町教育委員会

【活動日】 平成21年8月22日（※月1回、年8回の体験活動を実施）

【活動場所】 階上町内の個人所有の雑木林

【活動内容】 ツリーイング体験、そば打ち台制作

【参加者】 小学校1年生～4年生21名

【活動費】 階上町教育委員会の単独事業。ものづくりでは参加者から材料実費を徴収

学校週5日制が始まったことを契機に、平成13年度から継続している事業です。階上町の小中学生を対象に、春に会員を募集します。平成21年度は小学1年生～4年生を中心に58名が会員登録し、年間8回の体験活動（科学教室、海岸散策、星空観察、工場見学、そば打ち体験など）には、企画によって10名～40名の参加者がありました。

今回社会教育委員が訪問した活動は8月企画のツリーイング体験で、「ツリーイングクラブ青い森」からインストラクター8名が協力しました。代表の平井憲治さんは社会教育に深くかかわりのある方で、また八甲田ボランティアガイドを務めるなど、精力的に自然体験活動に取り組んでいる方です。子どもたちの指導にも慣れており、ツリーイングの確かな技術と、自然や木に感謝する心をしっかりと教え、参加した子どもも保護者も貴重な体験をすることができました。

活動の工夫、特長

- ・「わんぱく王国」では地域の専門家や団体を講師として招き、多様で質の高い活動がなされるよう、教育委員会がうまくコーディネートしています。
- ・企画ごとに参加者数や参加者の反応をもとに事業評価し、次年度の活動計画に反映させています。
- ・訪問した「ツリーイング体験」では、会場までの送迎のために来た保護者をうまく活動に取り込み、親子で体験することで大きな成果をあげています。
- ・ツリーイングを一度にできる人数が限られているので、綱渡りロープを張って自由に遊べる空間を作ったり、また12月企画で使用するそば打ち台を作らせたり、参加者が飽きずに活動できる工夫がなされています。

今後の展望、課題

- ・ 今後も継続していく予定だが、地域の人材や教育資源の掘り起こしが必要です。
- ・ 塾や部活動に入っておらず、このような体験活動にも参加してこない子どもたちが心配であり、参加を促すことが課題です。

ツリーイングとは、ロープを使った木登りです



→ 順番待ちの間に、綱渡りやそば打ち台作り



→ 「わんぱく王国」年間活動計画 →



訪問委員感想

- ◇親子での参加が多く、親子が気持ちを共有し、楽しそうに挑戦を繰り返していた。
- ◇自治体が実施主体となり、特別な技能を持つ外部の人材を活用し、通常では体験できない活動に取り組んでいる。自治体が費用等を負担することで成立する活動であり、社会教育に関する「官」の関わり方を考えさせられる。 《荒瀬委員》
- ◇子どもと一緒に活動した親御さんたちが、子どもの新たな面を見られた、子どもと一緒に体験を共有できてよかった、他の親御さんと知り合えてよかった、というような感想を語ってくれたのが心に残っている。
- ◇子どもだからと甘く見ずに、真摯な態度で指導する大人たちの姿勢がさすがだった。
- ◇子どもたちを飽きさせない工夫が随所に見られ、また親子で参加できるようにしていて、よく考えられたプログラムだと感心した。 《兎内委員》